

# 令和7年度 自己評価表

学校法人中村学園

専門学校静岡電子情報カレッジ

※文部科学省「専修学校における学校評価について」

[https://www.mext.go.jp/content/20250630-mxt\\_syogai01-000043419\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20250630-mxt_syogai01-000043419_2.pdf)

専修学校における学校評価ガイドライン（令和7年6月）

## 1. 学校の教育目標

### <建学の精神>

パイオニア（開拓者）の精神を基調とし、益々高度化する現代社会の変化に対応、更に試行錯誤の中からクリエイティブな精神を培い、独立自尊以って広く国際社会に貢献できる人格の形成を重点とする。

### <校訓>

技術は力なり 我は我が道を行く How to 人間ではなく Why 人間の養成

### <専門学校静岡電子情報カレッジ 教育方針>

第四次産業革命の技術革新 - 秀でるものを磨き、産業界で必要とされる最先端のニーズに即応できるスペシャリスト（エンジニア、クリエイター、オペレーター）の育成

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画 <重点目標>

### （1）建学の精神、校訓、教育方針について、学生理解の徹底

本学アドミッション・ポリシーのなかで、特に重要なキーワードについては頻繁に学生の理解を確認し、教育課程に反映できるようにする。

また、あらゆる分野において DX デジタル変革が急務となっていることから、すべての学科において、特に AI 活用による DX 推進の知識、技術・技能を身に付けさせる。

### （2）企業団体、企業との連携

産学連携教育プログラムによる本学ならではの職業人育成で当該分野への人材輩出を続けていく。変化の激しい現代において、常に産業界の最前線と連携し、現場の課題解決に直結する実践的な学びを提供することこそが本学の「職業教育の在り方」であると位置づけ、高等学校・他の専門学校、大学などとの連携についても継続、拡大を目指していく。

### （3）CAN スカラシップ制度を実践的に運用し、「教育の見える化」を推進

学科、学校のリーダーとして産学連携、フィールドスタディ、他学科とのコラボレートなどを通じて、先導的な活動をさせる。教員の片腕（TA）となれるように責任をもって指導する。研究活動成果は企業にとってメリットとなり得るレベル・内容を目指す。

また、学生が何を学び、どのようなスキルを身に付けたのかを外部へ明示する「教育の見える化」の一環として、その成果を広報面でも最大限活用する。

(4) 全学生が、自ら気持ちの良い挨拶ができるように、今一度「挨拶を基調とした全人教育」の基本に戻り学生指導を行う。

#### (5) 退学防止策の実施

退学率防止策の実施を引き続き行っていく。本学が実施するカリキュラムや学校イベント等の内容について、なぜこの科目を学ぶ必要があるのか、学校イベントでの狙いはいかなるものか、などをしっかり説明し、目的・必要性を認識させる。学生が自ら主体的に学ぶように考えさせる環境を提供していく。また、精神障害により退学する学生もおり、担任による面談、保護者との徹底した情報共有を行い、サポート体制を整える。

#### (6) リスキリング希望者の募集

両学科とも、厚生労働省の実施する教育訓練給付制度対象学科となった。また、新たに AI×DX プロデュース専攻科を設置することで、リスキリング、リカレント教育にも対応可能となる。

#### (7) 縦や横との交流の場の拡大

1, 2年生の縦のつながり、福祉医療専門学校の学生との横のつながりをもてる場を増やしていき、学生間同士の教え合える環境の構築、他分野の知識をもった学生同士のコミュニティの広がりを目指す。

### 3. 項目別自己評価

#### (1) 教育理念・目標

評価項目	評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
・学校における職業教育の特色は何か	3
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

#### ①課題

- ・入学前指導（ステップアップレッスン）や年度当初におけるアドミッション・ポリシーの徹底、理解の指導が年間通じて必要。
- ・Web、SNS等による教育内容の見える化、情報発信。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程編成委員会が出た意見のカリキュラムやイベントへの反映。</li> </ul>
<p>②今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程編成委員会の意見をもとに、年度末までに具体策を策定・実施していく。その結果を年度末の教育課程編成委員会で報告した。</li> <li>・具体的な項目（「～ができる」を満たした場合、アドミッション・ポリシーに適う人材であると言える項目）の一覧化ができたので、実施検討を行う。</li> </ul>
<p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和8年度からの学校教育法改正に向け、学則、カリキュラム表を改訂（特定専門課程＋専門士、単位制移行、「学生」の呼称）。また新制度による専攻科「AI×DXプロデュース専攻科」1年制、定員24名を新たに設置。IT分野に限定せず、DX推進が求められるあらゆる業界に対応。</li> <li>・前期末、年度末、年2回の自己点検評価、年2回の学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の実施。自己評価並びに学校関係者評価の公表（専修学校としての義務）。</li> <li>・月刊機関紙「CAN ジャーナル」をWeb掲載することで、学校の様子を各家庭にも伝えている。</li> <li>・シラバス、評価基準は公式ウェブサイト公開済（「高等教育の修学支援新制度」への対応）。</li> <li>・アドミッション・ポリシーの理解については、授業等でも折を見て説明している。</li> </ul>

## (2) 学校運営

評価項目	評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

<p>①課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生データの一律管理ができていない。</li> <li>・システム化可能な業務による更なる効率化の余地が残されている。</li> </ul>
<p>②今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校務支援システムの導入の検討</li> </ul>

<p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業者提案による校務支援システムについて、学内で情報共有。導入に向けて運用の可否を検討中。</li> </ul>
--

(3) 教育活動

評 価 項 目	評 価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

<p>①課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年ごとに学生のレベルの差異もあり、実践的な職業教育が安定して行えない。</li> <li>・入学時に、基礎学力、ヒューマンスキルが低い学生が目立つ。</li> <li>・留学生、心身症等の持病をもつ学生、知的障害等の学生に対する個別対応。</li> <li>・教員の指導力向上のための研修受講が主に各教員の裁量に任されており、組織的な課題解決のための研修としては不十分な面がある。</li> <li>・常勤・非常勤ともに教員が不足している。特定分野の能力に長けた教員の確保に難航。</li> </ul>
--

## ②今後の改善方策

- ・教育課程編成委員会を年2回開催している。今年度もこの委員会で企業委員からの有益な意見をカリキュラムに反映しシラバス等を改訂した。
- ・入学前課題などを再考し、基礎学力やヒューマンスキル、また学ぶ意欲をある程度上げた状態で、テクニカルスキルの学習を進めていく。またフィードバックできる仕組みを模索する。
- ・インターンシップ企業・業界団体との連携を深め、学生のレベルも相談しながら定期的実施していく。
- ・企業、企業団体、各種団体と連携をしたロールプレイを多用し、PBLが経験できるようにする。また、具体的な評価やフィードバックをもらえるように調整する。
- ・総合的な学力を早めに把握し適切な指導が行えるよう、個々の面談を定期的に行う。
- ・教員の指導力向上に関する研修は、いくつかのテーマから現場のニーズが大きいテーマを選び出し、カリキュラム設計から運営までを、福祉医療と共に運営管理する体制を作る。
- ・専門的な技術・知識を身に付けるための研修を計画実施する体制を作る。
- ・要員を確保する。

## ③特記事項

- ・市内のIoT開発企業での研修を前期2年生、後期1年生の学生たちに受けさせることができた。卒業生でもある社員の指導により、業界の仕事のイメージづけ、ものづくりの現場見学など、貴重な学びの場となった。また市内SIer、ネットワーク開発企業での実地研修・実習についても前期1年生に行っていただくことができた。
- ・県警・VELTEX静岡と連携した「防犯啓発動画」を完成させ、感謝状をいただいた。
- ・県警サイバーセキュリティ課からの依頼である「情報モラルカルタ」のゲームがほぼ完成した。
- ・清水マリナートにてホール見学・照明の実習を実施できた。
- ・例年に引き続き、「学生企画ライブ」をLIVE ROXYにて実施、集客面で課題が残ったが、無事終えることができた。

## (4) 学修成果

評価項目	評価
・就職率の向上が図られているか	3
・資格取得率の向上が図られているか	3
・退学率の低減が図られているか	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

<p>①課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動に対して、遅滞する学生が、ある一定層存在する。</li> <li>・国家資格の資格取得率が上がらない。</li> <li>・卒業後の進路変更やキャリアアップの情報の入り方に偏りがあり、一部の卒業生の動きしか把握できていない。</li> <li>・精神疾患による休学者・退学者が数名でてきている。</li> </ul>
<p>②今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に面談を行ったり、企業を見学させたりなど、ギャップを少しでも減らしていく。また、卒業生が活躍している企業とのマッチングを増やせるような機会を作り、卒業生と共に就職活動を行わせる。</li> <li>・国家資格の資格取得者を増やすため、次のような取り組みを継続していく。</li> </ul> <p>①入学前よりやる気のある入学者に対して早々に問題集や過去問題による学習を実施する。</p> <p>②実技の授業でも国家資格の問題にも活用できるようなカリキュラムを組み、座学が多くならない学習ができる仕組みを作る。</p> <p>③CAN スカラシップ生より始まった勉強会を利用し、他学生もこの勉強会を利用できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の進路変更やキャリアアップの情報収集ができるよう、SNS や同窓会のホームページを整備し、活用していく。</li> <li>・定期的な担任との面談等、早期に問題をキャッチできる仕組みを作る。また、サポート体制を構築し、学生が安心して学べる環境を整える。</li> </ul>
<p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度の卒業研究はすべてのテーマにおいて外部連携を行うことができ、その成果を発表会で1年生にも共有することができた。また、GoogleのAIのAPIやAWS、コーディングにおけるAI活用など、先進的な研究内容とすることができた。</li> <li>・卒業生を囲む会、オープンキャンパスなどに招く卒業生の近況把握や選抜を学科全体で行っている。</li> <li>・企業見学等、卒業後の進路について、1年生の早い段階から考え始める機会が提供できている。</li> <li>・舞台機構技能士や電気工事士などの資格に挑戦する学生が増加傾向にある。</li> <li>・国家試験「情報処理技術者」に半数近くの学生たちが挑戦。基本情報技術者1名、ITパスポート試験5名が合格。</li> <li>・精神的疾患をもつ学生の保護者と連携を密にすることで、家庭からの支援も得られ、指導・対応することができている。</li> </ul>

(5) 学生支援

評価項目	評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4

・学生相談に関する体制は整備されているか	4
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
・学生の生活環境への支援は行われているか	4
・保護者と適切に連携しているか	4
・卒業生への支援体制はあるか	4
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

<p>①課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任レベルで対応できない相談の場合の対応方法を検討・見直す。</li> <li>・卒業生への支援体制を整備してはいるが活用される場面が少ない。学校として卒業生との繋がりも大切なため、活用されるように見直していく。</li> <li>・既卒・社会人経験者を学生として受け入れている以外、リカレント、リスキリング教育の実施ができていない。</li> <li>・中学校・高校とのキャリア教育の連携が一部に留まっている。</li> </ul>	
<p>②今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任レベルで対応できない場合の、専門部署・チームの設置やカウンセラーの検討。</li> <li>・卒業生とのつながりが、卒業時の担任の個人 SNS だけとなってしまっている。学校が管理できるような外部システムを取り入れられないか検討する。</li> <li>・産学連携先や就職先、教育課程編成委員の意見を中心に、リカレント、リスキリングに対するニーズを聞き出し、カリキュラムに反映。企業や求職者にも提供できるように検討する。</li> </ul>	
<p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、島田商業高校の文化祭にて音響を担当できた。</li> <li>・心身症のある学生については保護者と情報交換・連携を密にできた。</li> <li>・静岡県職業教育振興会主催による職業体験フェア（年2回）に参加。ターゲットが小学生になるものの、保護者に対して本学のPRも行えている。</li> </ul>	

(6) 教育環境

評価項目	評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4

・防災に対する体制は整備されているか	4
--------------------	---

①課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生人数が例年より増えたためネットワークの整備が必要</li> <li>・Windows10 のサポート終了による Windows 11 移行</li> </ul>	
②今後の改善方策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・両館のネットワーク環境が多少整備された。しかし、根本のネットワークが変わっていないため、速度や接続問題、VPN などまだ改善箇所が残っている。</li> <li>・セキュリティ更新が配信されなくなるため、学内のすべての PC を対象に、Windows 11 への移行を実施した。</li> </ul>	
③特記事項	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も台湾への海外研修修学旅行が実施できた。昨年同様、台北城市科技大学で交流。また現地大学生と丸一日グループ活動、フィールドスタディーが実施できた。帰国後、学内で報告会を実施、その成果を電子・福祉両校で共有することができた。</li> <li>・毎年度初めに「学校保健計画」「学校安全計画」を作成・整備している。</li> <li>・毎年度初めに防災マニュアルの内容確認・更新を行っている。</li> <li>・毎年度初めに新入学生のための飲み水（ペットボトル）、非常食を購入、予め決めている場所で保管・管理している。</li> <li>・学内のパソコンで利用していたセキュリティ・ソフトウェアについては、Windows Defender に移行した。</li> </ul>	

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	評価
・学生募集活動は、適正に行われているか	3
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
・学納金は妥当なものとなっているか	4

①課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインでの学校説明などで使いたい、わかりやすい説明動画コンテンツが不足している。</li> <li>・IT系を中心に、オープンキャンパスへの参加者が少ない。</li> <li>・留学生の入学者が途絶えている。</li> </ul>	
②今後の改善方策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科ごとの説明動画を作成し、オンライン説明会などで活用する。</li> <li>・YouTube や Instagram など在校生、卒業生が制作したコンテンツを引き続きアップロードしていく。</li> <li>・学科内のみではなく、教職員全員が各学科の特長をよく理解し、オープンキャンパス、高校訪問、出前講座、口コミ等で分かり易くアピールできるようにする。</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスの体験では、以下の点を意識して計画、実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 職業観を持たせる</li> <li>b. 実際の授業に近い体験を実施する</li> <li>c. 専門学校生活の魅力を伝える</li> <li>d. 大学との差異、本学の良さを伝える</li> <li>e. ほかの参加者との関わりを持たせ、楽しんでもらう</li> </ul> </li> <li>・本学の宣伝やオープンキャンパスの告知方法を検討する。</li> <li>・各イベント等の活動をマスコミに投書する。</li> <li>・留学生向けの特化した情報発信を強化する。</li> </ul>
<p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度後半にキルギス人留学生の入学予定が確定。事前フォローを行っている。</li> <li>・大学中退者等、高校生以外の層にもオープンキャンパスで本学の魅力を伝え、入学につなげている。</li> <li>・オープンキャンパスや学校生活の様子、学校行事等、Instagram への投稿を、企画広報室主導により積極的に実施している。</li> <li>・SNSを通じて日ごろから授業の魅力、学校行事、学科独自のイベント等を公開できている。</li> <li>・両学科とも、厚生労働省の実施する教育訓練給付制度（専門実践教育訓練指定講座）対象学科となった。社会人の再チャレンジの選択肢の1つとして体制を整えている。</li> <li>・IT ゲーム&amp;ロボットシステム学科は「留学生キャリアアップ形成促進プログラム」の認定を受けている。</li> <li>・春2回・夏3回のスペシャルオープンキャンパスでは、在校生、卒業生の若手エンジニア、長年業界で活躍するスペシャリストを招聘し、段階的な職業イメージの強化と本学出願までの誘導を計画・実施をしている。</li> </ul>

(8) 財務

評価項目	評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
・財務について会計監査が適正に行われているか	4
・財務情報公開の体制整備はできているか	4

特記事項なし
--------

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	評 価
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
・自己評価結果を公開しているか	4

①課題 ・個人情報保護法の理解
②今後の改善方策 ・職員会議、学科・部署会議で法令遵守の確認を常時行う。
③特記事項 ・個人情報の取り扱いについて、入学当初に確認書の提出を義務付け、各家庭の理解を得ている。 ・個人情報に係る諸データは、全てパスワードで保護している。 ・年度当初に年間の重点目標を設定。半年ごとに学科・部署で点検を行い、次期への課題・改善策をまとめ、反映させている。年2回の自己点検評価の結果に基づいて学校関係者評価委員会を開催。学校関係者評価委員から評価を頂き、まとめ、オフィシャルウェブサイトで公開している。 ・高等教育の修学支援新制度認定を受け、成績評価基準、シラバス等について、最新の内容のものをオフィシャルウェブサイトで公開している。 ・職業実践専門課程認定学科として、毎年7月31日締めで別紙様式4を更新、オフィシャルウェブサイトで公開している。

(10) 社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	評 価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

①課題 ・学外の企業、団体からいただける依頼・案件にばらつきがあり、取り組みが安定しない。
②今後の改善方策 ・本学の特長でもある産学官連携での地域貢献活動を通して、本学学生の活動や取り組みを広く知ってもらい、広報活動にも繋げていく。また、コンスタントに連携ができる企業、団体を作っていく必要があると考えている。

<p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県からの委託事業（離職者訓練、長期人材育成）を受け入れている。</li> <li>・静岡県職業教育振興会主催による「お仕事体験フェア」への出展。</li> <li>・地域イベント（「森下ときめき収穫祭」）への出展。</li> <li>・昨年同様に掛川で実施されたイベントにボランティアとして参加できた。</li> <li>・大道芸ワールドカップのボランティアへの参加。</li> </ul>
--

(11) 国際交流

評価項目	評価
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

<p>①課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人留学生の学習支援、生活指導等の課題整理は引き続き途上である。</li> <li>・コロナ時期の影響が大きく、外国人留学生からの出願がほぼない。</li> </ul>
<p>②今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生支援の体制を整備し、本学が求める条件をクリア可能な留学生の受け入れを行っていく。</li> <li>・学習成果を国外にも告知できるようにホームページを整備する。</li> </ul>
<p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IT ゲーム&amp;ロボットシステム学科は「外国人留学生キャリア形成促進プログラム」の文部科学大臣認定を受けている。</li> <li>・留学生に対する日本語能力試験への対応をサポートしている。</li> <li>・留学生専用の入学選考の流れを構築、説明資料等も整備し、オープンキャンパス来校時に適切に対応している。</li> <li>・令和8年度、キルギス人留学生の入学が予定されている。</li> </ul>

以上